

<校長室の窓：6月>

未来への展望を失わない、「やさしい想像力」をもった心が特效薬！

幸福を運ぶ鳥とされるツバメが今年もやって来た。地上では、高いリスクの中、感染症と戦う医療従事者、そして、自分にできることは感染しないことと心に深く刻み、自粛生活を励行した一人一人の頑張りで、下館中にも通常登校の日がやって来る。

命を脅かし、人と人を物理的に引き離す新型コロナウイルスに塗りつぶされた日々、失ったものを数えても……。 「何物にも人の心は引き離せない！ 離させはしない！」と心に誓い、この数ヶ月、大きな大きな犠牲をはらって私自身が学んだことを心に浮かぶままに羅列してみる。

- ☆ 命のはかなさ（自然とは、人間とは、人生とは）、それゆえに一日一日を大切に生きることの貴さ。
- ☆ 当たり前（平穏）な暮らしが、実は多くの人々のお陰で社会のバランスが保たれ、必死に守られ、日常が成り立っていたことの再認識。
- ☆ 毎日の検温で自分の平熱と体調の微妙な変化を把握する習慣。
- ☆ 生徒不在の学校の味気なさや緊急事態宣言下での空しい生活を絶対に忘れず、手洗い、マスク、ソーシャルディスタンスの厳守等、“親しき仲にも礼儀あり”新しい生活様式の確立と新たな絆づくり。

緊急事態宣言は解除されても、新型コロナウイルスがなくなったわけではない。いつか2020年の春を振り返って、外出自粛の日々がよりよい人間社会の新たな幕開けと評価される日を迎えるために、「やさしい想像力」をもって、足並みを揃え、第2波が来ることも想定内に、この正念場を生き抜いて行こう。

令和2年 6月 1日
筑西市立下館中学校
校長 福田 幸一